

# 未来の庁舎を考える市民会議 提案報告書

## 1 会議名称

未来の庁舎を考える市民会議

## 2 会議の目的

市役所庁舎のあり方検討の参考とするため、将来、庁舎を利用することになる若い世代から、アイデアや意見を頂戴するため、会議開催したもの。

## 3 参加者 延べ 24 人（登録 30 人）※各回の参加者名簿のとおり

## 4 開催日程

第1回会議 令和4年7月23日（土）14時～16時30分

第2回会議 令和4年8月8日（月）18時30分から20時30分

第3回会議 令和4年9月26日（月）18時30分から21時

令和4年9月

宮 津 市

## 目 次

● 提案概要	1
・ 第1グループの提案	2
・ 第2グループの提案	11
・ 第3グループの提案	19
・ 第4グループの提案	28
■ 巻末資料	38
・ 第1回会議概要	38
・ 第2回会議概要	42
・ 第3回会議概要	47

## 提案概要

ワークショップ形式で3回の会議を実施し、4つのグループから提案をいただいた

### ■ 第1グループ 『分散型コンパクトシティ』を目指して

#### 【提案概要】

- 災害時における市役所機能維持の観点で分散配置とし、市民が活用する部署は福祉教育総合プラザに集約する。
- 本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、市民の交流スペースなどを設け、市役所が市民にとって親しみのある場所にする。これらの施設を「歩いていける距離」にまとめるとともに、市役所をシンボルとした地域活性化に繋げていく。

### ■ 第2グループ 未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案

#### 【提案概要】

- 現庁舎は最低限の耐震性を備えるようリノベーションをし、住民の利用しやすい市役所にする。
- 現庁舎を資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する。
- 災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所へ移築する。上宮津小学校の利用を提案。
- 「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放し、維持費を賄う。
- 福祉教育総合プラザは現状維持とする。

### ■ 第3グループ 庁舎のあり方検討 ～分散型配置とDXの推進の視点から～

#### 【提案概要】

- 本庁舎は建て替え、プラザは現状維持とする。
- オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合を行うとともに、災害対策、市民の交流スペースの確保、ZEBの実現を図る。

(※ZEB: Net Zero Energy Building、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと)

- 行政のDXの推進として、また、災害対策の面からもフリーアドレス制を提案する。

### ■ 第4グループ 人にもまちにも優しい新庁舎 ～未来への投資～

#### 【提案概要】

- 本庁舎は、完全に建て替え、現在と同じ4階建てを想定、場所は現在のままとする。
- 市民向けの窓口は2階までに集約する。
- 別館は、現在1階にある部署を本館に集約し、取り壊し、職員駐車場として活用する。
- 福祉・教育プラザは、現状維持のままとする。
- プラザのみ又は本庁舎のみで手続きを完結させるワンストップ化を進める。
- 災害発生時には、避難所を災害対策本部として活用する。

# 『分散型コンパクトシティ』を目指して

グループ1 道林英鉄 伊藤沙也加  
永井彩花 桑原瑞生  
磯野恵

## 目次

- 1 宮津市庁舎の現状
- 2 第1回、2回市民会議の振り返り
- 3 提言
- 4 まとめ

# 宮津市庁舎の現状

## 【概要】

- ・ 約60年前の、昭和37年（1962）6月に完成
- ・ 世界的な建築家である丹下健三氏の門下生であり、京丹後市峰山町出身の沖種郎によって設計される
- ・ 市域のランドマークであり、非常事態時において防災活動の中核を担う最も重要な公共施設である。
- ・ 宮津市役所庁舎（本館、新館、別館）はいずれも耐震安全性を満たしていないこと等から、おおむね5年以内の実施を目標として更新することとしている。

## 第1回 市民会議（1班）

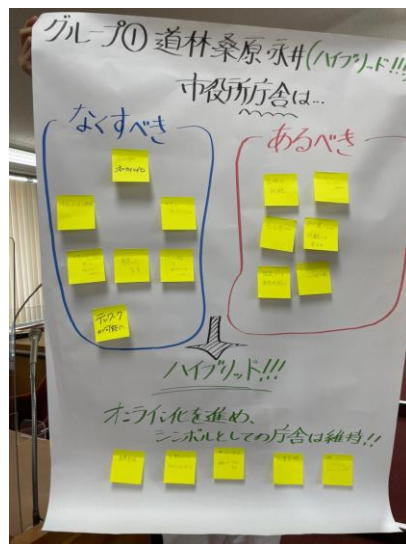
### 『バーチャル市役所の実現』

#### 【なくすべき】

- ・ **オンライン化**
- ・ テレワークを可能に
- ・ 市民の利便性

#### 【あるべき】

- ・ **町のシンボル**
- ・ **市民の相談窓口の必要性**
- ・ **土地の伝統**



## 第1回 市民会議（1班）

「市役所庁舎をなくすor残すの2つの方向性を討議」

- ・なくす方向の意見：オンライン化による利便性向上、**なくすことによる市のPR**につながる。テレワークなど職員の新たな働き方の実施、刑務所のような印象など
- ・残す方向の意見：**地域のシンボル**である。耐震化すると外観は変わってしまうなど

◎まとめ：オンライン化を進める一方で、市の象徴として庁舎を維持存続させる⇒**ハイブリット型**

## 第1回 市民会議（1班）

### 【課題】

- ・ **オンライン化**への道のり（多大な資金と時間の浪費）
- ・ **緊急時（災害時）**における配慮
- ・ 市民の**交流の場**（相談窓口など）の確保

# 第2回 市民会議（1班）

## 【事例研究1】

- ・大分県 津久見市庁舎の事例

### 「津波避難ビル」

- ・避難場所の形成
- ・司令塔機能
- ・ピロティと柱頭免震構造

### 「集客交流拠点施設との一体化」

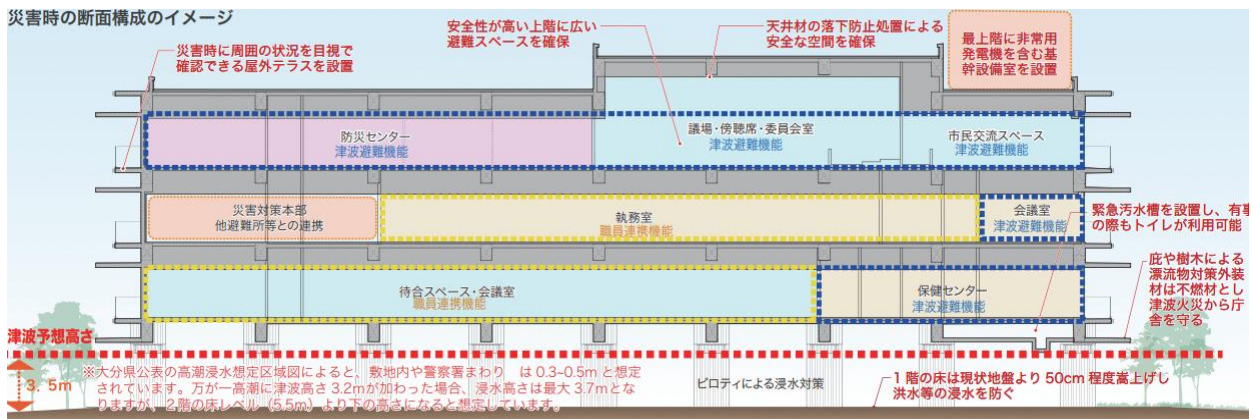


※津久見市新庁舎建設実施設計等業務より参考

# 提言

## 【事例研究1】

### 災害時の断面構成のイメージ

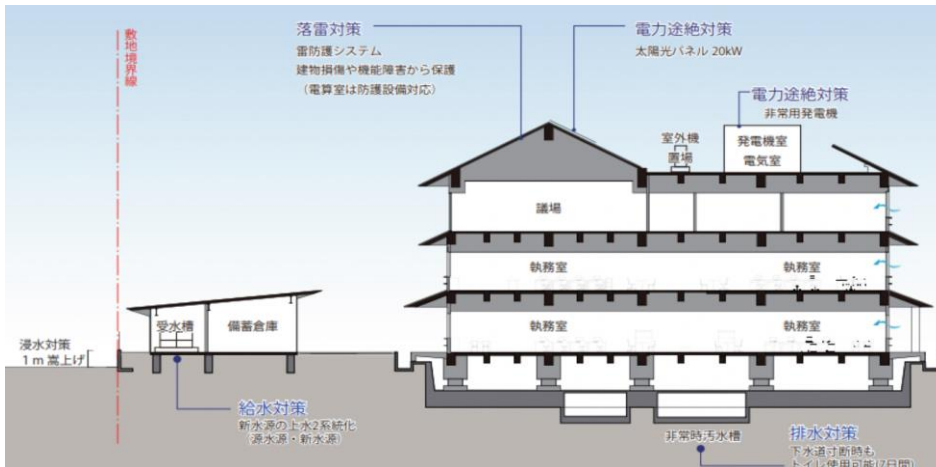


※津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書より抜粋

## 第2回 市民会議（1班）

### 【事例研究 2】

- ・高知県 安芸市庁舎の事例



※安芸市新庁舎建設基本設計より抜粋

## 第2回 市民会議（1班）

- ・本庁舎、別館の解体  
⇒市民のコミュニティスペースの確保  
残りの部署の集約
- ・一般市民の方が多く利用する部署ミップルに基本は移す
- ・「**歩ける距離**」で完結する施設づくり
- ・分散型と集約型のメリットの両立を目指す





## 第2回 市民会議（1班）

●分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図ることができる。本庁舎、別館は取り壊し、**1階は駐車場等防災機能**、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も**市民の交流スペース（カフェ等）などに整備**する。

●**ミップルと本庁舎は分散**させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が**歩いていける**導線をつくり、人の流れを作り出すようにする。

## 提言

### 【本庁舎】

- ・ **完全に建て替えを行う**  
⇒場所は現在の本庁舎と変わらない
- ・ **カフェの設置（市民の憩いの場）**  
⇒宮津市にカフェなどの休憩スペースが少ないことから
- ・ **1階を駐車場にするなど（防災機能の充実）**
- ・ **バリアフリー等の整備**

## 提言

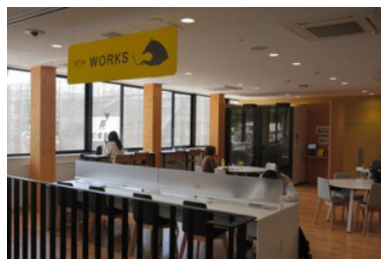
### 【ミップル】

- ・ 市民が多く利用する部署をミップルに移転する  
⇒ **ミップルに部署を集約することにより、市民の本庁舎との往來を削減できると考えられる。**
- ・ 現在の建物や、子育て支援等の基盤は**維持する**  
⇒ 「にっこりあ」など施設に加えて、様々な部署に行くことが可能になるため、利便性の向上が図られる。

## 提言

### 【別館】

- ・ 本庁舎と同様、**完全な建て替えを行う**
- ・ **市民の交流スペース**として活用する  
⇒ **コワーキングスペースの建設や公園（広場）の建設**



## 【分散型コンパクトシティ】

- ・本庁舎、別館、ミップルなどで**機能を分散**
- ・同じ建物への集約を避けることで、**災害時における対応の幅が広がる**

- ・分散させた建物を「**歩いて移動可能な範囲**」に配置する。
- ・歩いていける距離に配置することで、**人の流れを生み出すことができる**

## まとめ

- ・市民が活用する部署⇒ミップルに集約
- ・本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、**市民の交流スペース**などを設ける  
⇒市役所が市民にとって親しみのある場所に
- ・これらの施設を「**歩いていける距離**」にまとめる
- ・**市役所をシンボルとした地域活性化**に繋げていく

# 参考文献

- 宮津市「市役所庁舎のあり方について」(2022) <https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/1/13645.html> (2022年9月20日閲覧)
- 高知県安芸市「安芸市新庁舎建設基本設計」(2020) <https://www.city.aki.kochi.jp/download/?t=LD&id=5784&fid=40888> (2022年9月19日閲覧)
- 大分県津久見市「津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書」(2021)  
[https://www.city.tsukumi.oita.jp/uploaded/life/21307\\_44968\\_misc.pdf](https://www.city.tsukumi.oita.jp/uploaded/life/21307_44968_misc.pdf) (2022年9月20日閲覧)
- 朝日新聞「米原市役所本庁舎にコワーキングスペース 8月オープン」(2022)  
[https://www.asahi.com/articles/ASQ5C74H7Q5BPTJB007.html?iref=pc\\_photo\\_gallery\\_bottom](https://www.asahi.com/articles/ASQ5C74H7Q5BPTJB007.html?iref=pc_photo_gallery_bottom) (2022年9月20日閲覧)
- 京都府福知山市「市民交流プラザふくちやま概要」(2021年) <https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/39/2033.html> (2022年9月18日閲覧)
- 北海道砂川市「砂川市庁舎建設基本計画」<https://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/shisei/chousya/kihonnkeikaku.html> (2022年9月20日閲覧)
- 国土交通省「官民連携とは PPP/PFI」<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/1-1.html> (2022年9月10日閲覧)

ご清聴ありがとうございました



# 未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案

2グループ

堀、神近、上口、東山、中島、小西

## ▶ 目次

- 現庁舎のメリット・デメリット
- 新庁舎案
- 新設災害対策本部に関する案
- まとめ
- 参考文献

## ▶ 現庁舎のメリット

- 立地の良さ
  - ・ 宮津市の中心部に位置する→市民が利用しやすい
  - ・ 災害時、情報収集がしやすく災害対策本部を設置しやすい
- 建物自体の価値
  - ・ 有名な建築家の建築物

## ▶ 現庁舎のデメリット

- バリアフリー問題(トイレ・エレベーター)
- 庁舎の耐震問題
- 庁舎が大手川に近い問題
- 庁舎内の老朽化問題

以上のメリット・デメリットより.....

## 新築で建て替えるのが最善

現庁舎の場所に新築建替えとなると、  
大手川が近いというデメリットがある。  
⇒災害時の対策本部としては危険ではないか？  
⇒災害時には対策本部を別の場所に設ける



結論：本庁舎は最低限の耐震性を備えて建て替え、  
またDX化を中期的に導入、  
災害時には対策本部を「空いている公共施設」を利用する

## ▶新庁舎案①庁舎内について

- 清潔感があり、だれもが訪れやすい雰囲気化市役所に
  - ・ 食堂は一階に設置、市民利用をしやすい
  - ・ だれでも利用可能なコミュニティスペースの設置
  - ・ 窓口はすべてローカウンター化
  - ・ 市民利用の多い窓口は1階、少ない窓口は2階へ

## ▶新庁舎案①庁舎内について

- 庁舎内のバリアフリー化
  - ・バリアフリースイールの設置
  - ・スロープ、手すり、点字、エレベーターの設置
  - ・エントランスにわかりやすい総合案内、もしくは総合案内係の配置
  - ・キッズコーナーや授乳室の整備
  - ・庁舎外に、いつでも公的書類を出力できる機械を設置(ミップルの中など)

## 新庁舎案②現庁舎の活用案

- 有名な建築家の建築物→解体はもったいない
  - ・資料保管庫
  - ・宿泊可能な実習・合宿施設として活用(マリーンピア)  
→収入は災害拠点の維持費や設備投資に使用
  - ・会議室再整備後、市民へ開放
  - ・防災に関する市の関係課・係を配属



## 新設災害対策本部に関する案

### ■ 災害対策本部にどのような機能が欲しいか？

- ・ 停電や電力・水道供給が途絶えても機能すること。  
→ 病院などの体制を方法を参考に考える
- ・ 避難者のための食料や必要な物資の備蓄設備
- ・ 対策本部要員が泊まり込みに対応できる設備  
→ 冷蔵庫・お風呂・寝床・炊事場など最低限の確保
- ・ インターネット等の設備  
→ 災害時すべての情報がココに集約されるため、管理できる設備を整える。

## 新設災害対策本部に関する案

### ■ 災害対策本部として「空いてる公共施設」の活用を提案

#### 【現在空いている施設】

- ・ **上宮津小学校、宮津会館**  
→ 本部として集まりやすい場所  
土砂災害や津波、洪水の危険度が低い場所  
→ 海から少し離れ、少し高い場所にあり、市街地からそう遠くない場所  
= **上宮津小学校？**

※ただし、上宮津小学校は上宮津公民館の移転事業が予定されているため、その点の協議を重ねる必要あり

## ◆ 上宮津小学校の公民館移転事業についての資料

令和4年9月定例会		令和4年度9月補正予算 事業等説明資料【一般会計(第4号)】		(単位:千円)			
事業名	上宮津地区公民館の移転整備 (公民館整備事業)	充実	補正予算額	財 源 内 訳			
				国庫支出金	府支出金	市 債	その他
背景・経緯	施設の老朽化により、大規模改修または耐震工事が必要となっている上宮津地区公民館について、旧上宮津小学校を利活用し、移転整備するもの。 R2年9月 「宮津市公共施設再編方針書」により上宮津地区公民館の移転決定 R3年2月 上宮津地区公民館移転検討委員会の同意を得る R4年5月～ 地元検討委員会と実施設計に向けた施設内容の協議		8,000		8,000		0
			19,000			8,000	
補正理由及び目的・目標	上宮津地区公民館を旧上宮津小学校校舎に移転整備し、生涯学習及び住民活動の基盤整備を行うことにより、多様な学習機会を創出し、生涯にわたりいきいきと学び続けられるまちづくりを目指すとともに、地域コミュニティの活性化を図る。						
事業概要	<b>■上宮津地区公民館移転に係る実施設計 8,000千円</b> 旧上宮津小学校校舎の一部を上宮津地区公民館(地区連絡所機能を含む。)に改修整備するための実施設計 ○整備内容(予定) 大会議室、調理実習室、和室、トイレ洋式化、身障者用トイレ、地区連絡所ほか	 	総計重点7/02/124	—			
			テーマ別戦略	ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり			
			施策分野	社会教育			
			【宮津市総合計画以外の計画】	R3 : 宮津市教育大綱・教育振興基本計画 ; R3～R7			
期待される効果等				・地域住民の生涯学習の意欲の向上 ・地域コミュニティの活性化 ・公共施設マネジメントの推進 遊休施設(廃校舎)を活用した公共施設の再編			
担当部署	教育委員会事務局社会教育課		45-1642	8			

## 新設災害対策本部に関する案

### ■ 【上宮津小学校について考察】

※上宮津小学校は土砂災害の点で懸念があるが、洪水津波といった点からは危険度は低いと考えられる。

⇒小学校周辺の土砂災害リスクの把握、それに対する対策・整備が必要。

### ■ 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか。

◎拠点 を別に設ける = 維持費がかかる

- ・拠点・施設を使って収入を得る使い方もあり。
- ・収入は災害拠点の維持費や設備に使用。

## 新設災害対策本部に関する案

- ▶ 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか？  
※普段は公民館として利用されるが、そのほかの利用方法

①宿泊可能な実習施設・研修・クラブ活動の合宿施設として活用

先行事例：田井にあるマリーンピアのようなイメージ

⇒これの山バージョンの施設のイメージ

②会議室などを整備し、現在、ミツブルのコミュニティルームの貸出のように活用する

⇒但しミツブルよりも駅から遠くなるため、日頃の会議や市民のサークルなどといった活用は見込めない可能性がある

③スポーツや絵本の読み聞かせ、はまなす文庫（移動図書館車）の立ち寄り場所にする

⇒子供たちからお年寄りまでの憩いの場にすることで、普段から災害対策本部の位置の場を市民に持ってもらう。

④防災に関する市の関係課・係を拠点に持つてくる

⇒但し、そうすることで不都合、不便にならないかなどあらゆる観点から考察が必要

## 新設災害対策本部に関する案

### 【留意点】

- ・長期的に見ると有事に備えて維持費がかかる。
- ・定期的な点検や必要な環境整備は適宜行なっていく必要がある。
- ・空いている公共施設に学校を上げる利点として、学校にはもともと調理室やトイレといった水回りの設備（上下水道）があることから、整備もしやすいのでは？という点。  
=新たに上下水道を引くといった改修等の費用が抑えられる？

### ※常時の活用について

現在、防災関係の係は宮津消防署の2階に設置されていて、連携が密にとれるという観点から、わざわざ別の拠点に移す必要もない。

対策本部となる場所にある方がいいのか、消防と連携がとりやすいところにある方がいいのかを考える必要がある。

## まとめ

- 現庁舎は建て替え。
- 最低限の耐震性を備え、住民の利用しやすい市役所へ。
- 現庁舎は普段は使用しない資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する
- 災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所への移築⇒上宮津小学校の利用を提案
- 「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放⇒維持費を賄える

## 参考文献

- 宮津市ホームページ「以下ハザードマップ等 - 防災・減災」  
city.miyazu.kyoto.jp（2022年9月19日閲覧）  
上宮津小学校周辺の情報
- 01宮津地区 (city.miyazu.kyoto.jp)
- 大手川洪水ハザードマップ (city.miyazu.kyoto.jp)
- sinsuisoutei\_part7.pdf (pref.kyoto.jp)
- 宮津市「令和4年度宮津市9月補正予算(案)の概要」  
<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/uploaded/attachment/7665.pdf>

# 庁舎のあり方検討

## ～分散型配置とDXの推進の視点から～

### 3グループ

平井未憂 吉田俊彦 村田唯衣 加畑凜 山中優芽  
杉本朱里 中山優輝 井上桃 山本真緒



## 目次

1. 5つの視点再確認
2. 軸と方針
3. 行政機能のあり方検討
4. 先進事例から考える庁舎のあり方

## 5つ視点

視点1: 現建物の改修

視点2: 現地建替え

視点3: 非現地建替え

視点4: 他の建物の活用

視点5: バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現

## 視点ごとの評価

### 視点1

○場所が今と一緒にわかりやすい

●近いうちに建替えの検討が発生する

### 視点2

○場所が今と一緒にわかりやすい

●全ての施設を面積が足りるか疑問

### 視点5

○時間にとらわれずに手続きできる、施設の費用がかからない

●ネット環境が整っている人ばかりでない

### 視点3

○費用が比較的少ない、分散もできる、よりアクセスがよい場所を検討できる

●アクセスしやすい場所にあるのか

### 視点4

○費用が少ない、工事費がそれほどかからない

●ある程度の広さのある施設が必要

## 着目する視点

視点1: 現建物の改修

視点2: 現地建替え

視点3: 非現地建替え

視点4: 他の建物の活用

視点5: バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現

## 軸と方針

施設利用者に応じた分散型配置とDXの推進による  
視点2、視点3、視点5のハイブリッドがよい



本庁舎は建て替え、ミツプルは現状維持  
オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合  
人件費や維持費を削減

## 行政機能のあり方検討

### 本庁舎

- 行政機能
  - ・窓口の集約
  - ・交流スペース
  - ・防災機能: 発電・蓄電、予備電池
- 庁舎自体
  - ・バリアフリー: エレベーター
  - ・水害対策: 一階を駐車場にして建物の浸水対策
  - ・その他設備: ZEB、LED



### ミップル

- ・交流スペース
- ・子育て関連
- ・会議室
- ・図書館
- ・学習スペース



## 取り入れたい視点

- 市民が集い議論を交わせるような、新しい何かを生み出す場所
- 非常時の市役所の役割





## 具体案 水害対策

- 浸水対策として敷地の高さを周囲の道路より1.2m高くするなど、災害時の行政活動維持を担保。



一階を駐車場にする：現本庁舎の浸水した際に想定される水深は、1.0m～2.0m未満。建物の一階部分を駐車場とすることで、空間を活用することができ、かつ、洪水対策にもなる。

鳥取県鳥取市  
自治体面積：765.31km<sup>2</sup>  
人口：183,638  
人敷地面積：13,668.81m<sup>2</sup>  
建築面積：5,437.01 m<sup>2</sup>  
延床面積：22,269m<sup>2</sup>  
階数：地下1階、地上7階



## 具体案 ヘリポートの設置

- 屋上でヘリコプターがホバリングできる緊急救助スペース
- 72時間分の非常用電源を確保できる自家発電装置等を備える



ヘリポートを災害対策の1つとして検討してみてはどうか

宮城県亶理町  
自治体面積：73.6 km<sup>2</sup>  
人口：33,665  
敷地面積：  
建築面積：  
延床面積：約 7,040 m<sup>2</sup>  
階数：地上3階



## 具体案 庁舎の開放

- 閉庁日のエントランスホールの町民開放
- 3階に眺望スペースを確保し、町民へ開放



庁舎を開放することで、市民により親しみを  
庁舎が市民の交流の場になり得るのでは

岩手県紫波町  
自治体面積: 239 km<sup>2</sup>  
計画人口: 32,461 人  
敷地面積: 6,602,777 m<sup>2</sup>  
建築面積: 庁舎 2,584.05 m<sup>2</sup>  
延床面積: 庁舎 6,650.43 m<sup>2</sup>  
階数: 地上 4 階、地下 1 階



## 具体案 屋上の活用

- 太陽光パネル設置
- 屋上の緑化: ボランティアで野菜の作付けや花壇の整備を行っている。採れた野菜は庁舎2階の食堂で使用されることもある。



- ・太陽光発電で蓄電できれば災害対策にも
- ・屋上を有効活用し、花壇や畑を設けることで、市民の交流スペースになり得るのでは

東京都町田市  
自治体面積: 71.8 km<sup>2</sup>  
人口: 428,539 人  
敷地面積: 15,969 m<sup>2</sup>  
建築面積: 7,661 m<sup>2</sup>  
延床面積: 41,510 m<sup>2</sup>  
階数: 地下1階 地上 10 階



## 具体案 屋上の活用



東京都町田市  
自治体面積: 71.8 km<sup>2</sup>  
人口: 428,539 人  
敷地面積: 15,969 m<sup>2</sup>  
建築面積: 7,661 m<sup>2</sup>  
延床面積: 41,510 m<sup>2</sup>  
階数: 地下1階 地上 10 階



## 具体案 ZEBの実現

- ZEB認証 (Nearly ZEB: 最終値BEI=0.19 [削減率81%])
- 井水熱を利用した蓄熱槽など省エネ空調システムを採用



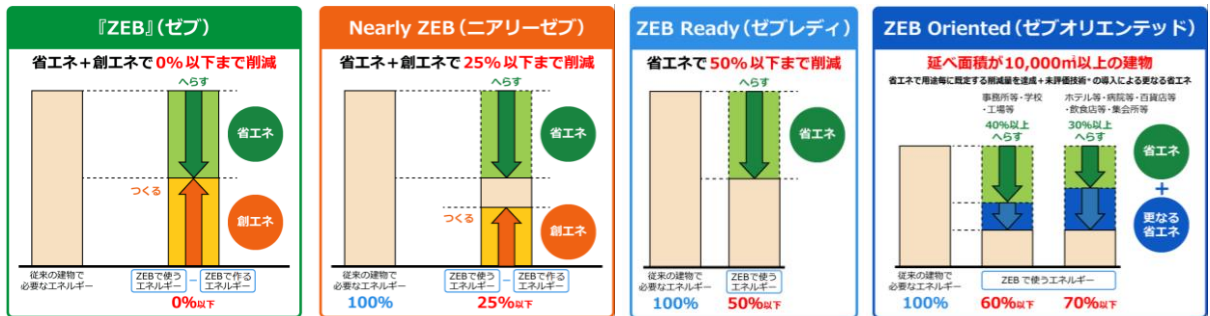
持続可能な庁舎を目指してZEBの実現を目指すのはどうか

神奈川県開成町  
自治体面積: 6.56 km<sup>2</sup>  
人口: 17,013  
人数地面積: 8,134.28 m<sup>2</sup>  
建築面積: 2,135.95 m<sup>2</sup>  
延床面積: 3,891.31 m<sup>2</sup>  
階数: 地上3階



# ZEBとは

室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物



## まとめ

本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持  
オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合



- 災害対策
- 交流スペースの確保
- ZEBの実現

## 参考文献・参考HP

- 池上産業株式会社「町田市庁舎」『WOODWISE』<http://woodwise.jp/product/machida-cvosya/>（閲覧日：2022/9/22）
- オーチャード天橋立「アクセス・周辺施設の紹介」『オーチャード天橋立ホームページ』<https://amanohashidate.orchard-care.co.jp/access>（閲覧日：2022/9/22）
- 環境省「ZEBの定義」『ZEB PORTAL』<https://www.env.go.jp/earth/zeb/detail/01.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 経済産業省資源エネルギー庁 省エネルギー対策課「ZEBロードマップ検討委員会 とりまとめ」、平成27年12月
- 気仙沼市「近年の庁舎整備の事例」『気仙沼市ホームページ』[https://www.kesennuma.miyagi.jp/sec/s014/shinntyousya/010/01-07\\_siryou5-2.pdf](https://www.kesennuma.miyagi.jp/sec/s014/shinntyousya/010/01-07_siryou5-2.pdf)（閲覧日：2022/9/22）
- 紫波町「役場庁舎移転のお知らせ」『紫波町ホームページ』<https://www.town.shiwa.iwate.jp/chosei/shisetsu/1683.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 株式会社タウンニュース社「開成町全国初のZEB庁舎へ」『タウンニュース』<https://www.townnews.co.jp/0608/2017/08/26/396105.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 株式会社 松田平田設計「ZEB建築への取り組み国内初の Nearly ZEB庁舎、開成町新庁舎」<https://www.mhs.co.jp/feature/zeb-1-%e9%96%8b%e6%88%90%e7%94%ba/>（閲覧日：2022/9/22）
- 鳥取市「鳥取市のプロフィール」『鳥取市ホームページ』<https://www.city.tottori.lg.jp/www/genre/1255421895217/index.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 復興庁「亶理町役場新庁舎開庁式が開催されました【令和2年1月9日（宮城県亶理町）】」『復興庁ホームページ』<https://www.reconstruction.go.jp/portal/chiki/2020/20200120watar.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 町田市「4階屋上花畑のご案内」『町田市ホームページ』<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/shiyakusyo/mainoffice/yonkaihanabatake.html>（閲覧日：2022/9/22）
- 三井住友建設株式会社「亶理町役場 亶理町保健福祉センター」『三井住友建設ホームページ』<https://www.smcon.co.jp/works/2019/12191525/>（閲覧日：2022/9/22）
- 宮津市「洪水ハザードマップ」『宮津市ホームページ』<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/site/bousaigensai/2431.html>（閲覧日：2022/9/22）
- <https://prurbanosichapp1.blob.core.windows.net/common-article/6023725aece4651c88c18098/jirei.pdf>（閲覧日：2022/9/22）
- NIPエンジニアリング株式会社「鳥取市新庁舎（鳥取県）」『NIPエンジニアリング株式会社ホームページ』<https://www.nipeng.co.jp/constructionresults/%E9%B3%A5%E5%8F%96%E5%B8%82%E6%96%B0%E5%BA%81%E8%88%8E/>（閲覧日：2022/9/22）

# 人にもまちにも優しい新庁舎 ～未来への投資～

第4グループ

吉田 楓太

野村 真未

森井 友也

由里 亮太

## 目次

- ①新庁舎のあり方について
- ②災害時の対応について
- ③庁舎整備のコスト面について

## ①新庁舎のあり方について

### 本館について

- **完全に建て替え**する（場所は現在のまま）
- 建て替え後も現在と同じ**4階建て**を想定
- 3～4階に窓口機能があると市民の方が昇り降りするのが大変であるため、**市民の方向けの窓口は2階までに集約**する



## 別館について

- 別館は現在1階以外使用していないため、現在**1階にある部署を本館に集約**する
- 車で通勤されている職員の方はミップルの隣にある「パーキングはままち」に駐車して徒歩で庁舎まで移動されている（本館まで約500m）

➡ 使わなくなった**別館のスペースを駐車場**にしては？



## ミップル（福祉・教育分野の窓口）について

- ミップルについては**現状維持**



➡ 子育て世代の方が福祉・教育分野の窓口に行くついでに、お子さんと一緒に子育て支援センター「にっこりあ」に立ち寄りという流れが出来上がっていると考えられるため、福祉・教育分野の窓口も本館に集約してしまうとかえって不便になるのでは？

- ミップルの方に相談に来たものの、結局本庁舎に行って手続きを行わないといけないことがあるという市民の方の声があるため、可能な限り**ミップルと本庁舎の往来を減らすためにも窓口機能を集約**させる必要がある

➡ ミップルのみ又は本庁舎のみで手続きを完結させる**ワンストップ化**



## 他のまちの庁舎のバリアフリー事例①

### 川越町役場（三重県）

- 車いす兼用・視覚障害者対応エレベーターをはじめ、授乳室や多目的トイレなど、随所にユニバーサルデザインが取り入れられている
- また、環境に配慮し、太陽光発電パネルや雨水利用槽の設置、自然採光の積極的な利用など、省エネルギー性能にも優れた庁舎となっている



## 他のまちの庁舎のバリアフリー事例②

### 八幡市役所（京都府）

- 以前の八幡市役所の駐車場は、車いす使用者用駐車施設に路面表示のみであり、施設の場所がわかりにくい状態だった



- 標識の設置により施設の場所がわかりやすくなった

標識のマーク：オストメイト（人工肛門・人工膀胱を保有する方）、

心臓疾患など内部障がいのある方、補助犬と同伴の方、妊産婦の方



## ②災害時の対応について

### 宮津市の防災拠点施設について

- 私たちのグループでは、本庁舎とミップルに市役所の機能を集中させることを提案した  
しかし、本庁舎が被災すると行政の機能（災害対策本部の設置や公助の部分）が停滞してしまう  
可能性がある  
また、ミップルについても海に近いことから津波のリスクがあり、万が一に備えて本庁舎と  
ミップル以外の災害発生時における行政の拠点を考える必要がある



- 現在、宮津与謝消防署宮津分署が宮津市の防災拠点施設になっているが、消防署は本庁舎から  
近い位置（約100m）にあるため、本庁舎が被災した際に消防署も被災している可能性がある

## 宮津市の避難所について

- 避難所のどこかを災害発生時における行政の拠点にするにしても、一つの避難所を指定するのは望ましくない



例)

- 宮津小学校は山から離れた所にあるため土砂災害に遭うリスクは少ないが、近くにある川の氾濫による洪水被害に遭う可能性がある
- 宮津中学校は海や川から離れた所にあるため津波や洪水被害に遭うリスクは少ないが、山の方にあるため土砂災害に遭う可能性がある



etc.

## 防災拠点施設の候補案

- 災害対策本部の立ち上げは迅速であることが求められるため、災害発生時における行政の拠点は本庁舎からできるだけ近い位置にあることが望ましい

### 提案

本庁舎から近い位置にある避難所を数カ所ピックアップし、本庁舎とミップルが被災した場合、ピックアップした中から災害の発生状況に応じて、**被災リスクが最も低いと考えられる避難所**を災害発生時における行政の拠点とする



### ③庁舎整備のコスト面について

#### PFI

- 「**PFI** (Private Finance Initiative) 」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法
- PFIの導入により、国や地方公共団体の**事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供**を目指すことができる

## PFIの事例（貝塚市役所）

- 貝塚市役所本庁舎は、建設から50年以上が経過し、老朽化が進んでいることに加え、耐震性能が不足している
- 貝塚市でのPFI事業では、新庁舎に福祉センターや教育庁舎、保健・福祉合同庁舎等の機能を統合することで、ワンストップサービスによる市民の利便性の向上をはかるとともに、防災機能拠点を備えた新庁舎の整備を目的としている



## ESCO事業

- 省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費の削減分で賄う事業
- ESCO事業の実施により自治体が損失を被ることがないように、事業採算性が重視され、自治体の**新たな財政支出を必要としない**
- 契約期間終了後の光熱水費の削減分は**全て自治体の利益になる**

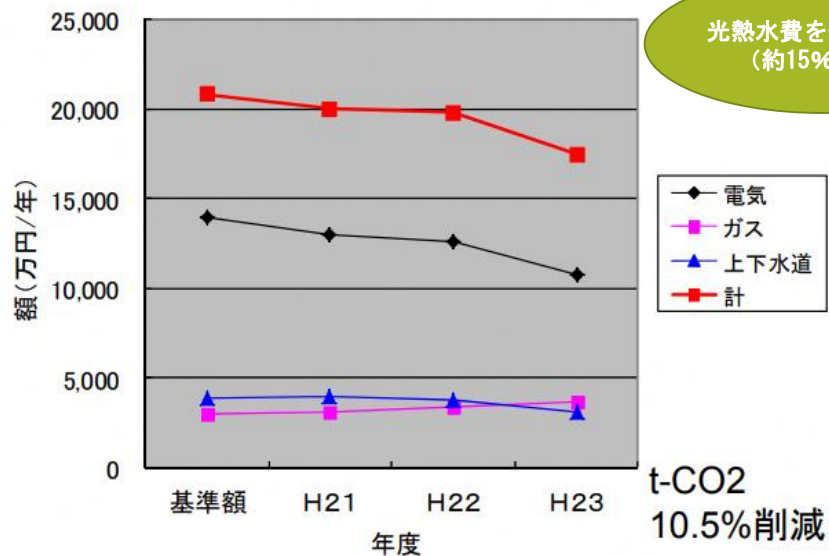
## ESCO事業の事例（福岡市役所）

- 冷温水ポンプの運転台数削減
- 電気室の排熱を暖房に利用
- 電算室の恒温恒湿管理



ブラインドと遮光カーテンによる二重保温

福岡市本庁舎光熱水費の推移



## サブタイトルの「未来への投資」について

将来にわたって宮津市民の方々に利用して  
いただけるような持続性のある庁舎をつくる



**庁舎整備は未来への先行投資**

## 参考文献

- Wikipedia「宮津市立宮津中学校」（2020）<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82%E7%AB%8B%E5%AE%E6%B4%A5%E4%B8%AD%E5%AD%A6%E6%A0%A1>（2022年9月19日閲覧）
- エコチューニング推進センター「自治体における先進事例」（2022）[https://eco-tuning.j-bma.or.jp/wp-content/uploads/2021/06/ecochu\\_03.pdf](https://eco-tuning.j-bma.or.jp/wp-content/uploads/2021/06/ecochu_03.pdf)（2022年9月20日閲覧）
- 環境省「1.「ESCO事業の概要」」（2022）<https://www.env.go.jp/council/35hairyo-keiyaku/y352-01/ref06-2.pdf>（2022年9月19日閲覧）
- サイネックス「くらしの情報誌・生活便利帳 みやづ暮らし」（2020）<https://ebooks.wagamachi-apps.com/book-search/viewsearch/bookNum/2625/schSearchType/freeWord/schKeyword/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82/actionMode/search/changeMode/List/keyFlg/0/>（2022年9月19日閲覧）
- さとうグループ「【加工食品担当】<<宮津市>>◆アルバイトデビュー歓迎！◆社員登用制度あり！【京都府宮津市】 - 求人情報詳細」（2022）[https://sato-kyoto-recruit.com/satokyoto2/A61003650915/MDkyujin\\_d.htm](https://sato-kyoto-recruit.com/satokyoto2/A61003650915/MDkyujin_d.htm)（2022年9月18日閲覧）
- 東芝エレベータ株式会社「川越町新庁舎 | 新設 施工事例」（2007）<https://www.toshiba-elevator.co.jp/elv/case/new/082.html>（2022年9月18日閲覧）
- docomomo「宮津市庁舎」（2022）<https://www.docomomojapan.com/structure/%E5%AE%AE%E6%B4%A5%E5%B8%82%E5%BA%81%E8%88%8E/>（2022年9月18日閲覧）
- top10place.com「パーキングはままち | Parking | Miyazu-shi」（2022）<https://jp.top10place.com/-1398367200.html>（2022年9月18日閲覧）
- 内閣府「PPP/PFI事例集：民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI推進室）」（2022）[https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi\\_jouhou/jireishuu/jireishuu\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/jireishuu/jireishuu_index.html)（2022年9月19日閲覧）
- 内閣府「PPP/PFIとは：民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI推進室）」（2022）[https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi\\_jouhou/aboutpfi/aboutpfi\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/aboutpfi/aboutpfi_index.html)（2022年9月19日閲覧）
- 日本の城写真集「宮津城 移築城門（宮津小学校）」（2021）<http://castle.jpn.org/tango/miyazu/1.html>（2022年9月19日閲覧）
- ボーンレンド『子育て支援センター「にっこりあ』』（2022）<https://www.bornelund.co.jp/results/childcare-support/3583.html>（2022年9月18日閲覧）
- 三菱HCキャピタル株式会社「貝塚市新庁舎整備事業 | PFI事業」（2022）<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/service/mul/pfi/example/example37.html>（2022年9月19日閲覧）
- 宮津市「商工観光課」（2022）<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/9/>（2022年9月18日閲覧）
- 宮津と謝消防組合消防本部「宮津と謝消防署 宮津分署」（2022）<http://www.miyavo119.jp/miyazu.html>（2022年9月18日閲覧）
- 八幡市「バリアフリー化の整備状況 ～八幡市バリアフリー基本構想～」（2014）<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000000037.html>（2022年9月18日閲覧）

# 未来の庁舎を考える市民会議第1回会議 概要

令和4年7月23日(土)

午後2時～午後4時30分

参加者：15名(参加者一覧のとおり)

コーディネーター：福知山公立大学 杉岡准教授

宮津市：市長以下事務局4名

(宮崎総務部長、徳澤総務秘書係長、上山情報推進係長、由利総務秘書係主査)

## 1 庁舎見学(市役所本館) 14:00～14:30

・本館1階→別館1階→本館南棟2階→本館3階→議場の順に庁舎を見学

※案内者：上山情報推進係長

## 2 開会(市長挨拶、会議趣旨説明等) 14:30～14:40

### ■城崎市長あいさつ

- ・「未来の庁舎を考える市民会議」に応募いただき、厚くお礼申し上げます。
- ・市役所庁舎は、老朽化と耐震不足という大きな課題に直面しています。
- ・市の財政は厳しいが、市民のサービスの拠点である市役所庁舎を安心安全で市民に喜んでいただけるものにしていかないと思っており、昨年から、庁舎のあり方について検討を始めました。
- ・今年度は、市民の皆さんの意見をしっかりと聞かせていただく年にしたいと思っております。
- ・こうしたことから、皆さんのように将来、庁舎を利用される若い世代から様々なアイデアやご意見を頂戴するため、この会議を立ち上げることにしたところです。
- ・「こんな市役所であってほしいな」、「これからの時代の市役所はこうあるべき」など、様々なご意見をいただきたいと思いますので、ぜひ、皆さんの感性で、知恵を絞っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 3 参考情報の共有 14:40～14:50

### ■宮崎総務部長説明

宮津市庁舎あり方検討令和3年度調査報告書概要

市民アンケート結果概要

## 4 ワークショップ 14:50～16:30

・4グループに分かれてワークショップ



ワークショップに当たって杉岡コーディネーターから全体説明

5つの視点を提示した中でどの視点を選択するかグループで検討、発表

視点1：現建物の改修

視点2：現地建替え

視点3：非現地建替え

視点4：他の建物の活用

視点5：バーチャル市役所（来なくても手続きできる）の実現

★各グループの発表概要（発表順はPCで出た数字、1→4→3→2の順）

■グループ1（ファシリテーター：道林　メンバー：桑原、永井）

○市役所庁舎をなくす or 残すの2つの方向性を討議

・なくす方向の意見、アイデア：オンライン化による利便性向上、なくすことによる市PRにつながる、テレワークなど職員の新たな働き方の実施、刑務所のような印象・・・など  
・残す方向の意見、アイデア：地域のシンボルである。耐震化すると外観は変わる・・・など

◎まとめ：オンライン化を進める一方で、市の象徴として庁舎を維持存続させる

■グループ2（ファシリテーター：上口、メンバー：小西、東山、中島）

○今と未来の庁舎をみずえるをテーマとして討議

・意見、アイデア  
・宮津の今のイメージ：人と人との関わりが深くあたたかいまち、親しみやすいまち、きれいに整備されたまちなみ、日本で有名なところ（天橋立がある）、観光名所、海のちかく。一方で人口減少が続くまち  
・こうなってほしい：子どもがいる家庭が増えるような子育てしやすいまち

◎まとめ：

・庁舎は分散するよりもまとまっていたほうがよい  
・バーチャル化、デジタル化を進めていくほうがよいが、高齢者等デジタル弱者への配慮も必要。直ぐに進めるのは難しい  
・リフォーム、リノベーションを行ったとしても耐震性が微妙

★未来になるべく課題を残さないようにすることが必要

■グループ3（ファシリテーター：平井、メンバー：吉田、加畑、村田）

○5つの視点のメリットデメリットを出し合いながら討議

・1のメリット：場所が今と一緒なのでわかりやすい・・・など  
・1のデメリット：近いうちに建替えの検討が発生する・・・など  
・2のメリット：場所が今と一緒なのでわかりやすい・・・など  
・2のデメリット：全ての施設を面積が足りるか疑問

- ・ 3のメリット：費用が比較的少ない、分散もできる、よりアクセスがよい場所を検討できる
  - ・ 3のデメリット：アクセスしやすい場所にあるのか・・・など
  - ・ 4のメリット：費用が少ない、工事費がそれほどかからない
  - ・ 4のデメリット：ある程度の広さのある施設が必要・・・など
  - ・ 5のメリット：時間にとらわれずに手続きできる、施設の費用がかからない
  - ・ 5のデメリット：ネット環境が整っている人ばかりではない・・・など
- ◎まとめ：施設利用者に応じた分散型配置とDXの推進による視点2、視点3、視点5のハイブリッドがよい

○グループ4（ファシリテーター：吉田、メンバー：野村、森井、川崎）

- ・ 利用者やサービス内容について意見、アイデアを出しながら討議
- ・ 若者を対象とすればバーチャル市役所が望ましいとする一方で高齢者や子育て世代など対面ならではのメリットも残していくことが必要。
- ・ 費用はなるべく抑えたい。

まとめ：整備費用を抑えて現庁舎を修繕に充てていく、視点5と視点4の組み合わせがよい

#### ■講評

◎杉岡コーディネーターから

各グループの発表について特徴的な点をコメント

○今日のワークショップで得られた方向も踏まえ、次回、さらに議論を深めていくようにしてほしい。

○次回までに「他の市役所（県庁でも可）庁舎の整備事例を1つ調べてくること」を課題として出す。次回、各自で調べた結果を持ち寄り、発表していただく。

◎市長から

- ・ バーチャル市役所を推す意見が多い感触。DXを進めているところであるが、引き続きオンライン手続きの拡大に取り組んでいきたいと思う。
- ・ 平常時の視点だけでなく、非常時の市役所の役割も視点として取り入れてほしい。
- ・ 現庁舎は、市民が集い議論を交わせるようなスペースを設けたデザインとなっている。そういった新しい何かを生み出す場所という視点も検討に入れてほしい。

5 閉会 16:30

次回8月8日（月）18:30から20:30 福祉・教育総合プラザ第1コミュニティルーム

## 宮津市未来の庁舎を考える市民会議(第1回)参加者名簿

	氏名	区分	備考	
1	道林 英鉄	大学生	ファシリテータ	グループ1
2	桑原 瑞生	大学生		グループ1
3	永井 彩花	社会人		グループ1
4	小西 敦也	社会人		グループ2
5	東山 綾	高校生		グループ2
6	上口 貴子	大学生	ファシリテータ	グループ2
7	中島 朋子	社会人		グループ2
8	吉田 俊彦	社会人		グループ3
9	加畑 凜	高校生		グループ3
10	平井 未憂	大学生	ファシリテータ	グループ3
11	村田 唯衣	大学生		グループ3
12	川崎 碧	社会人		グループ4
13	吉田 楓太	大学生	ファシリテータ	グループ4
14	野村 真未	大学生	ファシリテータ	グループ4
15	森井 友也	社会人		グループ4

### 事務局

	氏名	所属	職名
1	宮崎 茂樹	宮津市総務部	部長
2	徳澤 雅仁	宮津市総務部総務課	総務秘書係 係長
3	上山 直仁	宮津市総務部総務課	情報推進係 係長
4	由利 隆博	宮津市総務部総務課	総務秘書係 主査

## 未来の庁舎を考える市民会議第2回会議 概要

令和4年8月8日（月）

午後6時30分～午後8時30分

参加者：19名（参加者一覧のとおり）

コーディネーター：福知山公立大学 杉岡准教授

事務局（宮津市）：4名

（宮崎総務部長、徳澤総務秘書係長、上山情報推進係長、由利総務秘書係主査）

### 1 庁舎見学（福祉・教育総合プラザ） 18：30～18：45

- ・4階健康福祉部・教育委員会→4階施設（にっこりあ、障害者支援センターほか）  
→3階施設（図書館ほか）の順に見学

※案内者：上山情報推進係長

### 2 ワークショップ 18：45～20：30

- ・4グループに分かれてワークショップ

ワークショップに当たって杉岡コーディネーターから前回（7月23日）のおさらいほか全体説明を行った。

■テーマ：

前回会議（庁舎（本庁舎・別館）見学、ワークショップ）、今日（8月8日）の庁舎（福祉・教育総合プラザ）見学を踏まえ、未来の宮津市庁舎はどうあるべき？

—他の市庁舎等の事例も踏まえて—

★各グループの発表概要（発表順は準備できた順、4→3→2→1の順）

#### 【第4グループ発表内容】 市民が行き交う新庁舎～未来への投資～

- 現庁舎を完全に建て替えることを提案。別館が本庁舎と隣接しているが、職員が浜町パーキングに駐車して、徒歩移動している。別館スペースを駐車場にしてはどうか。
- 別館は1階以外使用していないので、現行の1階部署を本館に集約する。
- 整備する新庁舎について、4階建てを想定。3～4階に窓口機能があると利便性が悪いため、市民が利用する窓口機能等は2階までに集約する。
- 現庁舎にはバリアフリー機能が不足しているため、整備する庁舎にはバリアフリー機能を備える。例えば、エレベーター・点字ブロック・多目的トイレ・通路等への手すりなど。
- ミップルは、現状維持。にっこりあがあるため、子育て世代のユーザーはにっこりあと福祉・教育分野の窓口に行くことに慣れている様子。

- 市民の方でミップルで相談に来たが、結局、本庁舎に戻って手続きを行わないといけないという声もあるようなので、できるだけミップルと本庁舎の往來を減らし、窓口機能を集約すべき。ミップルのみ又は本庁舎のみで、て手続きを完結させるワンストップ化を考えていく必要あり。
- 宮津市は財政が厳しいとのことなので、庁舎整備に係る財源をどうやって捻出するかが課題。例えば、補助金の確保やクラウドファンディング、一般寄附、ふるさと納税などを検討してはどうか。一方、コスト削減のために、省エネ対策や自家発電、オンライン化による人件費の削減などに取り組む。
- 「未来への投資」というサブタイトルを題した。庁舎整備には大きな投資。将来にわたって庁舎を利用していくことを考えると、庁舎整備は未来への先行投資だと考える。

#### <コーディネーター講評>

宮津市の財政状況等も踏まえた提案であり、とても現実的な提案だった。バリアフリー化、エレベーターなどの機能を持たすことは市民にとっても職員にとってもメリットがある。

#### 【第3グループ】

- 前回は市民のニーズに合わせた「分散型配置」と「DXの推進」を議論した。
- 本庁舎を建て替えることを前提とし、ミップルは残す方向。公共施設（行政機能）が市内のどこにあるのか、何が不足しているのかについて検討を深めた。
- 本庁舎については、窓口サービスのオンライン化が可能なものはオンライン化を推進する。防災対策として、1階は駐車場、床面を上げてはどうか。ゼロエネルギー（ZEB）の事例を参考に検討をしてはどうか。バリアフリー化、エレベーターの設置は重要。
- コスト面について、本庁舎の建て替えに当たって、オンライン化を進めることによって庁舎の規模縮小を行い、業務のデジタル化を進めることで、人件費や通勤手当を削減する。
- 前回市長が防災面についてふれられた。避難所機能を持たせることのほか、都市部の庁舎ではあるようだが、ヘリポートを整備しているケースもあった。停電した際に対応できるよう自家発電や予備電源機能の整備が必要。
- ミップルと本庁舎に市民が集える交流スペースがほしい。ミップルは現状維持で、図書館や学習スペースは確保する。
- 庁舎近辺に交流する場所（例えばカフェ）を設け、人が交流するように促していく。宮津市内の不用施設の統廃合により、コスト削減を図っていく。

#### <コーディネーター講評>

防災面を前面に検討していただいたと思う。丹後震災から100年が経過し、大規模地震がいつ発生するかわからない。防災機能の核となる市役所本庁舎の建て替えとともに、庁舎規模を縮小し、駐車場スペースを確保する点についても提案いただいた。ヘリポートの整備と

いった新しい視点もあった。交流スペースを設け、市民が気軽に立ち寄れる市役所といった提案もあった。

#### 【第2グループ】 未来に課題を残さない

- 主に3点について議論した。(1) 災害対策 (2) 建築 (3) 利便性について。
- 前回市長から話があったが、現行の本庁舎は川沿いにあることや耐震性能が不足しているため、防災面としては脆弱。移転するとして、他の自治体の事例であるが、山の上にある廃校を活用した災害対応施設を整備し、避難所や有事の際に対応できるようにする。
- 耐震性能が不足しているため、庁舎の耐震性能を強化することが第一優先。
- 行政のオンライン化の推進は喫緊の課題である。しかし、オンライン化よりも災害への対応(備え)が最優先事項だ。庁舎の複合化について、商業施設内で住民票等の公的書類が取得できるようにすることも必要な視点。
- 本庁舎について、4階建てにもかかわらずエレベーターが整備されていないため、市民からも不便だという声も聞く。窓口サービスのワンフロア・ワンストップ化を検討してはどうか。

#### <コーディネーター講評>

耐震性をメインに議論いただいた。利用していない公共施設の利活用についても議論いただいた。この点についても、議論を深めていただきたい。公的書類のミップルでの発行についても提案いただいた。

#### 【第4グループ】 分散型コンパクトシティ

- 分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図ることができる。本庁舎、別館は取り壊し、大胆ではあるが、1階は駐車場等防災機能、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も市民の交流スペース(カフェ等)などに整備してはどうか。
- ミップルと本庁舎は分散させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が歩いていける導線をつくり、人の流れを作り出すようにする。

#### <コーディネーター講評>

本庁舎、別館いずれも取り壊しとするが、市民が来庁する機会が多い窓口部署はミップルに、事業者等が来庁される部署は本庁舎に集約するという一方で、分散配置での提案だったと思う。市民が集う交流スペースを整備すること、また、「歩いていける」ということがキーワードになってくる。引き続き議論を深めてほしい。

◆終わりにコーディネーターから次回 9/26（月）に向け、参加者へアナウンス

今後、他の事例を研究し、各グループで提案を作成してほしい。次回最終回は 9/26 にパワーポイント（スライド）で発表していただく。9/22 17 時までに市総務課情報推進係へ提出を。

## 宮津市未来の庁舎を考える市民会議(第2回)参加者名簿

	氏名	区分	備考	
1	磯野 恵	社会人		グループ1
2	道林 英鉄	大学生	ファシリテータ	グループ1
3	桑原 瑞生	大学生		グループ1
4	永井 彩花	社会人		グループ1
5	小西 敦也	社会人		グループ2
6	東山 綾	高校生		グループ2
7	上口 貴子	大学生	ファシリテータ	グループ2
8	神近 仁	大学生		グループ2
9	堀 雄翔	大学生		グループ2
10	中島 朋子	社会人		グループ2
11	吉田 俊彦	社会人		グループ3
12	山中 優芽	高校生		グループ3
13	平井 未憂	大学生	ファシリテータ	グループ3
14	村田 唯衣	大学生		グループ3
15	山本 真緒	社会人		グループ3
16	由里 亮太	社会人		グループ4
17	吉田 楓太	大学生	ファシリテータ	グループ4
18	野村 真未	大学生		グループ4
19	森井 友也	社会人		グループ4

### 事務局

	氏名	所属	職名
1	宮崎 茂樹	宮津市総務部	部長
2	徳澤 雅仁	宮津市総務部総務課	総務秘書係 係長
3	上山 直仁	宮津市総務部総務課	情報推進係 係長
4	由利 隆博	宮津市総務部総務課	総務秘書係 主査



## 未来の庁舎を考える市民会議第3回会議 概要

日 時 令和4年9月26日(月) 午後6時30分～午後9時

会 場 宮津市福祉・教育総合プラザ

参加者 別紙未来の庁舎を考える市民会議(第3回)参加者名簿のとおり

宮津市:市長以下事務局4名

(宮崎総務部長、徳澤総務秘書係長、上山情報推進係長、由利総務秘書係主査)

市職員検討グループメンバー6名

(森口建設部長、辻村企画財政部次長、中嶋都市住宅課長、長澤財政課担当課長、黄前建築住宅係主任、瀬野建築住宅係主任)

### ■開会

■発表準備(杉岡コーディネーターから今までのおさらいと本日の発表について説明を受け、5分間のグループ内打合せを行った。)

### ■提案発表

#### <第4グループ> 人にもまちにも優しい新庁舎 ～未来への投資～

●発表者 吉田 楓太

○主に3つの観点から述べていく。①新庁舎のあり方について、②災害時の対応について、③庁舎整備のコスト面についてである。

○市役所本庁について、完全に建て替え、現在と同じ4階建てを想定、場所は現在のままで提案する。

○3～4階に窓口機能があると市民の方が昇り降りするのが大変であるため、市民の方向けの窓口は2階までに集約する。

○別館について、現在1階以外使用していないため、現在1階にある部署を本館に集約する。

○車で通勤されている職員の方はミップルの隣にある「パーキングはままち」に駐車し、徒歩で庁舎まで移動されている(本館まで約500m)ため、使用しない別館のスペースを駐車場として活用する。

○宮津市福祉・教育プラザについては、現状維持のままとする。子育て世代が福祉・教育分野の窓口に行くついでに、子どもと一緒に子育て支援センター「にっこりあ」に立ち寄りという流れができ上がっていると考えられるため、福祉・教育分野の窓口も本館に集約してしまうとかえって不便になる。

○ミップルの方に相談に来たものの、結局本庁舎に行って手続きを行わないといけなかったことがあるという市民の方の声がある。可能な限りミップルと本庁舎の往来を減らすためにも窓口機能を集約させる必要があることから、ミップルのみ又は本庁舎のみで手続きを完結させるワンストップ化を進める。

○現庁舎では、バリアフリー機能が不足している。川越町役場(三重県)、八幡市役所(京都府)の事例研究を行った。

○次に、災害時の対応について、本庁舎とミップルに市役所の機能を集中させることを提案した。

しかし、本庁舎が被災すると行政の機能が停滞してしまう可能性がある。また、ミップルについても海に近いことから津波のリスクがあり、万が一に備えて本庁舎とミップル以外の災害発生時における行政の拠点を考える必要がある。

○現在、宮津与謝消防署宮津分署が宮津市の防災拠点施設になっているが、消防署は本庁舎から

近い位置(約 100m)にあるため、本庁舎が被災した際に消防署も被災している可能性がある。

○避難所のどこかを災害発生時における行政の拠点にするにしても、一つの避難所を指定するのは望ましくないと考えた。具体例として、宮津小学校は山から離れた所にあるため土砂災害に遭うリスクは少ないが、近くにある川の氾濫による洪水被害に遭う可能性がある。また、宮津中学校は海や川から離れた所にあるため津波や洪水被害に遭うリスクは少ないが、山の方にあるため土砂災害に遭う可能性がある。

○災害対策本部の立ち上げは迅速であることが求められるため、災害発生時における行政の拠点は本庁舎からできるだけ近い位置にあることが望ましいと考えた。以上のことから、本庁舎から近い位置にある避難所を数か所ピックアップし、本庁舎とミップルが被災した場合、ピックアップした中から災害の発生状況に応じて、被災リスクが最も低いと考えられる避難所を災害発生時における行政の拠点とすることを提案する。

○最後に、③庁舎整備のコスト面について。本庁舎の完全な建て替えを提案したので、コスト面について議論を行った。その中で、2点の事例を調べた。1点目は、「PFI(Private Finance Initiative)」。PFIは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。PFIの導入により、国や地方公共団体の事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指すことができる。事例として、貝塚市役所(大阪府)を調べた。当該庁舎は、建設から50年以上が経過し、老朽化が進んでいることに加え、耐震性能が不足しており、宮津市と似ていた。貝塚市でのPFI事業では、新庁舎に福祉センターや教育庁舎、保健・福祉合同庁舎等の機能を統合することで、ワンストップサービスによる市民の利便性の向上を図るとともに、防災機能拠点を備えた新庁舎の整備している。

○コスト面に関する2点目の事例として、「ESCO事業」がある。省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費の削減分で賄う事業のこと。ESCO事業の実施により自治体が損失を被ることがないよう、事業採算性が重視され、自治体の新たな財政支出を必要としない。契約期間終了後の光熱水費の削減分は全て自治体の利益になることが特徴。導入事例として、福岡市役所(福岡県)がある。冷温水ポンプの運転台数削減、電気室の排熱を暖房に利用、電算室の恒温恒湿管理を行っている。光熱水費を約3千万円(約15%)削減している。

○まとめ。サブタイトルを「未来への投資」とした。将来にわたって宮津市民の方々に利用していただけるような持続性のある庁舎を創る。庁舎整備は未来への先行投資だと考えている。

○提案が、宮津市の庁舎整備の参考になれば幸い。ご清聴ありがとうございました。

#### ●杉岡コーディネーター コメント

○大きく5点のポイントがあった。①バリアフリーの視点、②ミップルを現状維持していくという現実的な視点、③PFI等、先行事例の研究、④分散型の災害対応、⑤ESCO事業等、財源の視点など。

#### ●市長 コメント

○バリアフリー機能、財源、省エネ等の先進事例など良い提案だった。感謝申し上げます。省エネについては必ず達成していく必要がある中、ESCO事業は興味深い事業だった。

○PFI導入については、イニシャルコストのみならずランニングコストも考慮して、慎重に判断していく必要があると思う。グループの議論の中で、PFIの導入のイニシャルコスト・ランニングコストのコスト比較について議論があったか伺う。

●4グループ 回答

○PFIを導入した際にランニングコスト等、長い目で見た際に行政が整備したよりも多額の費用を要するケースがあった。実際にPFIを導入する場合は、有識者も交えて慎重に議論しなければならないと思う。今回は、コスト抑制の面から1つの手法として提案した。

●宮崎総務部長 コメント

○提案いただき感謝申し上げます。防災拠点を分散化する視点は、我々には持ち合わせてなかったもので、斬新な発想をいただいた。別館については駐車場に整備するということがあったが、本館は現庁舎位置であるとした理由は。

●4グループ 回答

○宮津市民の方が長年有している伝統意識、駅等にも近く市街地で立地的にも最適だという判断方である。

★☆☆-----★☆☆

**<第1グループ> 『分散型コンパクトシティ』を目指して**

●発表者 道林 英鉄

○(1)宮津市庁舎の現状、(2)第1回、2回市民会議の振り返り、(3)提言、(4)まとめで提案する。

○宮津市庁舎の現状は記載省略。

○1回目の市民会議において、『バーチャル市役所の実現』について議論した。オンライン化やテレワークを可能にするなど。「市役所庁舎をなくす or 残す」の2つの方向性を討議する中、なくす方向の意見はオンライン化による利便性向上、なくすことによる市のPRにつながる。テレワークなど職員の新たな働き方の実施など。残す方向の意見として、現庁舎は地域のシンボル。耐震化すると外観は変わってしまうなど。まとめとして、オンライン化を進める一方で、市の象徴として庁舎を維持存続させるとして、ハイブリット型を目指すこととした。

○課題として、オンライン化への道のり(多大な資金と時間の浪費)、緊急時(災害時)における配慮、市民の交流の場(相談窓口など)の確保があった。

○津久見市(大分県)庁舎の事例を研究した。当該庁舎には、「津波避難ビル」と「集客交流拠点施設との一体化」がされている。また、浸水対策として、津波予想高さである3.5mまで床面を引き上げていた。こうした対応は宮津市にも有効な災害対応であると考える。

○次に、安芸市(高知県)庁舎の事例。庁舎の横に貯水タンクを設置することで災害時の給水対策を行うとともに、停電対策として、屋上に太陽光パネルを設置していた。

○これらを踏まえ、第2回目の会議で、グループとして本庁舎、別館の解体し、市民のコミュニティスペースの確保、ミップル以外の残りの部署を集約する。また、一般市民の方が多く利用する部署ミップルに基本は移す。「歩ける距離」で完結する施設づくり、分散型と集約型のメリットの両立を目指すという方向で進めてきた。

○2回目のまとめとして、分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図る。本庁舎、別館は取り壊し、1階は駐車場等防災機能、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も市民の交流スペース(カフェ等)などに整備する。ミップルと本庁舎は分散させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が歩いていける導線をつくり、人の流れを作り出すようにすることとした。

○提言として、

- 本庁の場所は現在の本庁舎と変えず、完全に建て替えを行う、宮津市にカフェなどの休憩スペースが少ないことから、カフェの設置(市民の憩いの場)、防災機能の充実を図るため、1階を駐車場にする、バリアフリー等の整備を進める。
- ミップルに部署を集約することにより、市民の本庁舎との往来を削減できると考えられるため、市民が多く利用する部署をミップルに移転する。「にっこりあ」など施設に加えて、様々な部署に行くことが可能になるため、利便性の向上が図られる現在の建物や、子育て支援等の基盤は維持する。
- 別館については、本庁舎と同様、完全な建て替えを行い、市民の交流スペースや、コワーキングスペースの建設や公園(広場)を建設して活用する。

○また、「分散型コンパクトシティ」の考え方により、本庁舎、別館、ミップルなどで機能を分散する。同じ建物への集約を避けることで、災害時における対応の幅が広がる。分散させた建物を「歩いて移動可能な範囲」に配置する。歩いていける距離に配置することで、人の流れを生み出すことができる。

○まとめとして、市民が活用する部署はミップルに集約する。本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、市民の交流スペースなどを設け、市役所が市民にとって親しみのある場所にする。これらの施設を「歩いていける距離」にまとめるとともに、市役所をシンボルとした地域活性化に繋げていく。提案の反省点として、コスト面の分析が不足していたと思う。

#### ●杉岡コーディネーター コメント

○第1回、第2回目の論点整理を行い、提案いただいた。災害対応、市民の交流スペースの整備等、先進事例を研究いただいた。本館、別館は完全な建て替えをすることとし、代わりに広く市民が集うことができるスペースを整備することを提案いただいたことはこのグループのポイントと感じた。また、プラザの市民窓口サービスのワンストップ化等についても提案いただいた。

#### ●市長 コメント

○災害時を踏まえた提案をいただいた。感謝申し上げます。平時においては、市役所はそれほど意識されないが、災害時は行政としていかに対応するかということで市民からの関心が高くなる。他市町

においても、災害時対応を念頭に庁舎整備をされているものと改めて強く感じた。

○市民の交流スペースの整備について提案をいただいた。市民が集うことができるそうした機能もあればと感じた。

○将来を見据えた際には多少コストがかかっても、行政のオンライン化・デジタル化を進めていく必要があると考えているが、行政のデジタル化について、グループで議論がされたか伺う。

●4グループ 回答

○第2回目で庁舎の位置について、主に議論を行った。行政のオンライン化・デジタル化について、議論の深堀りができなかったと思う。

●杉岡コーディネーター コメント

○本グループは分散化について議論がされた。京丹後市は分散化ではなく峰山に集約していくことで議論が進められている。分散化は職員の一体感等の面でデメリットもあるが、議論はあったか。

●4グループ 回答

○完全な分散化は職員の一体感は薄れていくかもしれないが、機能を一極集中させると、災害時には脆弱になるのではないかという判断をした。分散化は行うが、「分散型コンパクトシティ」の視点で、デメリットをカバーできればと思う。

●森口建設部長 コメント

○市の検討部会で昨年、京丹波町と和歌山県串本町の庁舎視察を行った。いずれも新築庁舎だった。視察先の選定理由は、宮津市と人口規模が同等であること、産業構造が似ていることから選定に至った。第1グループの事例の選定理由はこういったものかポイントを教えてほしい。

●4グループ 回答

○宮津市と人口規模が似ていることから選定した。

●宮崎総務部長 コメント

○災害時を想定した庁舎整備について提案をいただいた。市長からもあったように、市民の交流スペースの整備についても提案をいただいた。

○現在、行政DXを進めていく中、分散化の庁舎配置、また、「分散型コンパクトシティ」の考え方について提案をいただいた。こうした市民の流れを作り出していく必要があると思う。何か市民の動きや、流れについて議論がされたか伺う。

●4グループ 回答

○人の流れを生み出すという点で、市庁舎に市民交流スペースの整備を提案した。また、公共交通機関のさらなる利用促進により、地域住民はもとより、外からのお客さんの来訪が期待できると思う。

**<第2グループ> 未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案**

## ●発表者 全員

- (1) 現庁舎のメリット・デメリット、(2) 新庁舎案、(3) 新設災害対策本部に関する案、(4) まとめで述べる。
- 現庁舎のメリットとして、宮津市の中心部に位置し市民が利用しやすく、災害時、情報収集がしやすく災害対策本部を設置しやすいため、立地が良い。また、有名な建築家の建築物であることから、建物自体に価値を有する。
- 現庁舎のデメリットとして、(1) バリアフリー問題(トイレ・エレベーター)、(2) 庁舎の耐震問題、(3) 庁舎が大手川に近い問題、(4) 庁舎内の老朽化問題がある。
- 以上のメリット・デメリットより、新築で建て替えるのが最善という結論に至った。現庁舎の場所に新築建替えとなると、大手川が近いというデメリットがある。結論として、本庁舎は最低限の耐震性を備えて建て替え、DX化を中期的に導入、災害時には対策本部を「空いている公共施設」を利用することとした。
- 新庁舎案 ①庁舎内について、清潔感があり、だれもが訪れやすい雰囲気の市役所にするとし、
  - ・食堂は一階に設置、市民利用をしやすく
  - ・だれでも利用可能なコミュニティスペースの設置
  - ・窓口はすべてローカウンター化
  - ・市民利用の多い窓口は1階、少ない窓口は2階へとした。
- また、庁舎内のバリアフリー化対策として、
  - ・バリアフリースイールの設置
  - ・スロープ、手すり、点字、エレベーターの設置
  - ・エントランスにわかりやすい総合案内、もしくは総合案内係の配置
  - ・キッズコーナーや授乳室の整備
  - ・庁舎外に、いつでも公的書類を出力できる機械を設置(ミップルの中など)をしていく。
- 新庁舎案 ②現庁舎の活用案について、有名な建築家の建物であり、解体はもったいないことから、
  - ・資料保管庫
  - ・宿泊可能な実習・合宿施設として活用(マリンピア)し、収入は災害拠点の維持費や設備投資に使用
  - ・会議室再整備後、市民へ開放
  - ・防災に関する市の関係課・係を配属として利活用していく。
- 次に新設災害対策本部に関する案について。災害時には対策本部を「空いている公共施設」を利用することを提案する。災害対策本部にどのような機能が欲しいかという点で、
  - ・停電や電力・水道供給が途絶えても機能すること(病院などの体制を方法を参考に考える)。

- ・避難者のための食料や必要な物資の備蓄設備
- ・対策本部要員が泊まり込みに対応できる設備(冷蔵庫・お風呂・寝床・炊事場など最低限の確保)
- ・インターネット等の設備(災害時すべての情報がココに集約されるため、管理できる設備を整える。)

○災害対策本部として「空いてる公共施設」の活用を提案する中、現在空いている施設として、

- ・上宮津小学校、宮津会館(本部として集まりやすい場所)
- ・土砂災害や津波、洪水の危険度が低い場所(海から少し離れ、少し高い場所にあり、市街地からそう遠くない場所)

を踏まえ、上宮津小学校が良いのではないかと。ただし、上宮津小学校は上宮津公民館の移転事業が予定されているため、その点の協議を重ねる必要がある。

○上宮津小学校について、さらに考察した。上宮津小学校は土砂災害の点で懸念があるが、洪水津波といった点からは危険度は低いと考えられる。しかし、小学校周辺の土砂災害リスクの把握、それに対する対策・整備が必要。

○「空いている公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するかという点で、拠点を別に設けると維持費がかかるため、拠点・施設を使って収入を得る使い方もあり得る。収入は災害拠点の維持費や設備に使用する。

○「空いている公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するかという点で

- ①宿泊可能な実習施設・研修・クラブ活動の合宿施設として活用  
(先行事例:田井にあるマリンピアのようなイメージ)⇒この山バージョンの施設のイメージ
- ②会議室などを整備し、現在、ミップルのコミュニティルームの貸出のように活用  
ただし、ミップルよりも駅から遠くなるため、日頃の会議や市民のサークルなどといった活用は見込めない可能性がある。
- ③スポーツや絵本の読み聞かせ、はまなす文庫(移動図書館車)の立ち寄り場所にする。  
子どもたちからお年寄りまでの憩いの場にする事で、普段から災害対策本部の位置の場所を市民に持ってもらう。
- ④防災に関する市の関係課・係を拠点に持ってくる。ただし、移転することで不都合、不便にならないかなどあらゆる観点から考察が必要。

○留意点として、

- ・長期的に見ると有事に備えて維持費がかかる。
- ・定期的な点検や必要な環境整備は適宜行なっていく必要がある。
- ・空いている公共施設に学校を上げる利点として、学校にはもともと調理室やトイレといった水回りの設備(上下水道)があることから、整備もしやすいのではないかと(新たに上下水道を引くといった改修等の費用が抑えられるか)。

○常時の活用について、現在、防災関係の係は宮津消防署2階に設置されていて、連携が密に測ることができる点から、わざわざ別の拠点に移す必要性は薄い。対策本部となる場所にある方がいいのか、消防と連携がとりやすいところにある方がいいのかを考える必要がある。

○まとめとして、

- ・現庁舎は最低限の耐震性を備えるようリノベーションをし、住民の利用しやすい市役所にする。



- ・現庁舎は普段は使用しない資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する
- ・災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所へ移築する。上宮津小学校の利用を提案。
- ・「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放し、維持費を賄う。

#### ●杉岡コーディネーター コメント

- 現庁舎を残すことを前提に、提案をしていただいた。災害対策本部の点について、旧上宮津小学校の利活用など深く議論いただいた。また、通常には集客施設として収入を生み出すなどの発想もあり、良い。また、ローカウンター、キッズスペース、授乳スペースなど、来庁者目線での具体的な庁舎のあり方について提案があった。

#### ●市長 コメント

- 新庁舎整備について、ローカウンターの配備等、具体的な提案をいただいた。また、ソフト面で総合案内所の整備など、今後参考になる視点であった。
- 災害対策本部の点について、市庁舎から離れた場所に整備する点で、これまでにない視点でよかった。現実問題として、災害の度合いによって対応の可能性は変わってくると思う。複合災害時には、安全な場所に災害対策本部を設けることは重要である一方、グループ内で議論があったように、通常時における施設をどう使用するかは課題だと思う。また、災害時、離れた場所で災害対策本部を設ける際には運用面の課題もある。
- 提案時にはプラザをどうするかは触れられていなかったが、プラザについてはどのように考えるか伺う。

#### ●2グループ 回答

- コスト面から、プラザは現状維持とする。例えば、プラザにいつでも公的書類が出力できる機械を設置することで、市民サービスの向上を図る。

#### ●辻村財政課長 コメント

- 「空いている公共施設」の災害対策本部を設けるなどの視点について参考にしたい。
- 本館、別館の現庁舎を維持する際は、コストがかかる。財源確保や収益確保について、どのように議論がされたか教えていただきたい。

#### ●2グループ 回答

- 施設の維持管理費については大きな課題であると認識。一方、災害から住民の生命、財産を守る点で、今回グループでの議論を深めてきた。今回の提案は、財源面では少し薄いかもしれないが、災害時への対応を主眼にして提案をした。



●宮崎総務部長 コメント

○ここまで振り返り、感じたことであるが、いずれも現在の場所を想定した提案をいただいた。過日実施した「市役所庁舎のあり方検討に関する市民アンケート」で、本庁舎があってほしい場所について、尋ねたところ、「市街地であれば他の場所でも構わない」(43.44%)、「現在の場所(柳縄手)がよい」(24.04%)、「どこでも構わない」(23.32%)、「その他の場所がよい」(9.29%)という順であった。選定理由や議論の経過を伺う。

●2グループ 回答

○新たな場所に庁舎を整備することになると、私有地や土地の確保をすることから始まり、さらにコストがかかることや、現在の場所以外に適地が見当たらなかったことから結論に至った。

●杉岡コーディネーター コメント

○多くの自治体でその地の一等地に立地していることが多い。やはり利便性が高い。時代の変遷と共に変わってくるかもしれない。

★☆☆-----★☆☆

<第3グループ> 庁舎のあり方検討 ～分散型配置とDXの推進の視点から～

●発表者 平井 未憂

○(1)5つの視点再確認、(2)軸と方針、(3)行政機能のあり方検討、(4)先進事例から考える庁舎のあり方について述べる。

○(1)5つの視点について、

視点1:現建物の改修(メリ:場所が今と一緒なのでわかりやすい、デメリット:近いうちに建替えの検討が発生する。

視点2:現地建替え(メリ:場所が今と一緒なのでわかりやすい、デメリット:全ての施設を面積が足りるか疑問

視点3:非現地建替え(メリ:費用が比較的少ない、分散もできる、よりアクセスがよい場所を検討できる、デメリット:アクセスしやすい場所にあるのか)

視点4:他の建物の活用(メリ:費用が少ない、工事費がそれほどかからない、デメリット:ある程度の広さのある施設が必要)

視点5:バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現(メリ:時間にとらわれずに手続きできる、施設の費用がかからない、デメリット:ネット環境が整っている人ばかりではない)

○以上を踏まえ、視点2:現地建替え、視点3:非現地建替え、視点5:バーチャル市役所(来なくても手続きできる)の実現の3つの視点から考察した。

○軸と方針として、「施設利用者に応じた分散型配置とDXの推進による視点2、視点3、視点5のハイブリッドがよい」という結論に至った。したがって、本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持。また、オンライ

ン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合。さらに人件費や維持費を削減する方針とした。

○次に、行政機能のあり方検討を行った。本庁舎について、

- ・行政機能として、(1)窓口の集約、(2)交流スペース、(3)防災機能:発電・蓄電、予備電池があるべき。
- ・庁舎自体として、(1)バリアフリー(エレベーターの設置)、(2)水害対策(一階を駐車場にして建物の浸水対策)、(3)その他設備(ZEB、LED)など。

○ミップルについては、

交流スペース、子育て関連、会議室、図書館、学習スペースなどの現有機能は維持する。

○庁舎整備に当たり、今後取り入れたい視点として、

- ・市民が集い議論を交わせるような、新しい何かを生み出す場所
  - ・非常時の市役所の役割
- を確保していくこととして具体案を検討した。

○水害対策として、鳥取県鳥取市の事例を参考にした。これは、浸水対策として敷地の高さを周囲の道路より1.2m 高くするなど、災害時の行政活動維持を担保していた。これを基に、庁舎整備に当たっては、一階を駐車場にする。現本庁舎の浸水した際に想定される水深は、1.0m~2.0m未満であることから、建物の一階部分を駐車場とすることで、空間を活用することができ、かつ、洪水対策にもなる。

○また、水害対策として、宮城県亘理町の事例を参考にした。これは、ヘリポートを設置することで、屋上でヘリコプターがホバリングできる緊急救助スペースを備え、72時間分の非常用電源を確保できる自家発電装置等を配備していた。災害対策の1つとして、ヘリポートを検討してみてもどうか。注目する点は、宮城県亘理町の人口規模。宮津市よりも少し多いが、宮津市の同規模と考える。

○次に、市民の交流スペースの創出、庁舎の開放について、岩手県紫波町の事例を参考にした。これは、閉庁日のエントランスホールの町民開放、3階に眺望スペースを確保し、町民へ開放するもの。庁舎を開放することで、市民により親しみを庁舎が市民の交流の場になり得るのではないかと考える。

○同じく、市民の交流スペースの創出、庁舎の開放の点で、屋上の活用について、東京都町田市の事例を参考にした。これは、屋上の緑化という観点から、太陽光パネル設置を屋上に設置するもの。ボランティアで野菜の作付けや花壇の整備を行っている。採れた野菜は庁舎の食堂で使用されることもある。太陽光発電で蓄電ができれば災害対策にも屋上を有効活用することができ、花壇や畑を設けることで、市民の交流スペースになり得るのではないかと考える。

○最後に、ZEBの実現として、神奈川県開成町の事例を参考にした。ZEB 認証(Nearly ZEB:最終値 BEI=0.19[削減率81%])として、井水熱を利用した蓄熱槽など省エネ空調システムを採用するもの。持続可能な庁舎を目指して ZEB の実現を目指してはどうか。

※ZEBとは、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物のこと。神奈川県開成町も人口規模は宮津市と同等であることから導入に当たって注目できる。

○まとめであるが、本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持する。また、オンライン化による庁舎の規模縮小や不用施設の統廃合を行うとともに、災害対策、市民の交流スペースの確保、ZEB の実現を図る。さらに、行政のDXの推進として、災害対策の面からもフリーアドレス制を採用してはどうか。

●杉岡コーディネーター コメント

○5つの視点をしっかりと検証いただいた。本庁舎は建て替え、ミップルは現状維持することで提案いただいた。ヘリポートの整備など特徴のある提案であった。また、屋上を利用した太陽光発電システムの設置や ZEB による省エネ化など、新庁舎を整備するには必要な視点である。行政のオンライン化による財源の確保など示唆に富む提案であった。

●市長 コメント

○5つの視点から分析していただき、論理的思考による提案であった。災害面では、水害対策やヘリポートの整備など、今後南海トラフ巨大地震を想定すると考えていく必要がある視点であった。また、屋上を活用した省エネ対策、ZEB によるカーボンニュートラルへの対応など、今後は必須の観点であると認識している。

○改めてであるが、市の「本庁舎」の定義はどのように考えておられるか率直なイメージを伺う。

●2グループ 回答

○本庁舎のイメージとして、行政機能が最も多く賦存する庁舎のことを言うと考えている。また、市のシンボリックな施設であると思う。

●杉岡コーディネーター コメント

○その自治体の首長がおられる施設についても本庁舎を示す際の重要な視点であると思う。隣町の与謝野町は3庁舎あり、町長は岩滝町の庁舎、議場は野田川庁舎にある。本庁舎の定義については、今後検討を深めていく必要がある論点である。

●長澤公共施設マネジメント担当課長 コメント

○オンライン化による庁舎の規模縮小について提案があった。行政DXによるフリーアドレス化などの導入など。こうした行政DX化(フリーアドレス化)、オンライン化などによる庁舎の規模縮小について、どの程度規模が縮小できるか研究や議論等がされていたが、またどの程度の規模縮小が可能か伺いたい。

●2グループ 回答

○一度に規模を縮小することは難しいが、今後フリーアドレス化を採用することによって、庁舎の必要面積を段階的に規模縮小ができるのではないかという意見があった。具体的な規模の縮小面積は持ち合わせていないが、今後オンライン手続きの導入が進むことによって、窓口機能の規模縮小化ができると考えている。

●杉岡コーディネーター コメント

○事例紹介をする。愛媛県西予市は、内線電話はなく、職員は全てPHSを利用して業務を行っている。愛媛県と愛媛県西予市は同じ庁舎を共同利用して、業務を行っている。置き換えると、宮津市役所

と京都府丹後広域振興局宮津庁舎との共同利用など。今後、調査研究を深めていただければと考えている。

●宮崎総務部長 コメント

○行政においては、まだまだアナログな部分が残っている。今後、行政DXを進めていくことで、ペーパーレス化を進めていくことができると思う。今後は、ポストコロナの動きの中で、在宅勤務など新しい働き方がより進んでいくと思う。こうした点も考えながら庁舎のあり方を考えていく必要があると思う。屋上の活用や ZEB などの視点もあり、今後研究をしていく。

○提案として、新庁舎の整備は現在の位置であるということによかったか確認する。

●2グループ 回答

○グループ調査の中では、水害対策等の観点やなどを踏まえると現在の位置での建て替えが良いという結論に至った。

★☆☆-----☆☆

■ まとめ

●杉岡コーディネーター コメント

○今回、未来の庁舎を考える市民会議をコーディネートさせていただき、本学学生含め、良い会議になったと思う。

会議を振り返ると、重要なポイントがあった。

- (1)「よそ者効果」として、①地域の再発見効果、②誇りの涵養効果、③知識移転効果、④地域の変容を促進する効果、⑤しがらみのない立場からの解決案の提案があった。
- (2)「ごちゃ混ぜ視点」として、市職員、高校生、ほくとしんきん、丹鉄、福知山公立大学学生など多様な方が集まって議論を深めることができた。
- (3)「わかもの目線」で議論ができた。どの自治体でも議会に足りない視点として、若者、女性、サラリーマンからの視点が不足していることが課題となっているが、この会議では様々な立場の方が参加していただけた。例であるが、若者視点のまちづくりとして、新城市が若者議会といった取組もある。こうした若者を主役にした取組についても検討いただけたらと思う。

○今後、宮津市で「みんなの市役所、みらいの市役所、みえる市役所」が進むことを期待する。

■ 閉会

■ 市長挨拶

○皆さんには、「未来の庁舎を考える市民会議」にご参加いただき、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

○第1回会議でも申し上げましたが、今年度は、市民の皆さんの意見をしっかりと聞かせいただく年にしたいと思っております。

- そうした中、皆さんには7月23日から3回にわたり会議にご参加いただき、未来の市役所の庁舎についてアイデア等をご検討いただき、本日、その検討内容についてご提案いただきました。
- 若い世代を中心に、参加していただいた皆さんから貴重な意見をいただいたと感じています。
- また、コーディネーターをお世話になった杉岡先生には様々な面で市の取組みをサポートしていただいている。今後ともよろしくお願ひいたします。
- これまでは、庁舎は一か所にあるべきだという認識を持っていたが、今日の会議での提案を受けて、分散型で庁舎を設置することによる、市民へのメリットや災害時における対応など様々な面でメリットがあることに改めて気付くことができた。コロナ前と、ウィズコロナ・アフターコロナでは皆さんの考え方も変わってきたのではないかと感じました。
- また、庁舎の在り方を考える際、働き方、暮らし方はどうあるべきか検討を深めていく必要があるように感じた。大変有意義な会議であった。心から感謝申し上げます。
- 皆さんのアイデアや意見をしっかりと受け止め、次のステップへ歩みを進めてまいりたいと考えております。

## 未来の庁舎を考える市民会議(第3回)参加者名簿

	氏名	所属	備考	
1	小田 心	高校生		グループ1
2	道林 英鉄	大学生		グループ1
3	伊藤 沙也加	大学生		グループ1
4	永井 彩花	社会人		グループ1
5	小西 敦也	社会人		グループ2
6	東山 綾	高校生		グループ2
7	堀 雄翔	大学生		グループ2
8	中島 朋子	社会人		グループ2
9	中山 優輝	大学生		グループ3
10	平井 未憂	大学生		グループ3
11	村田 唯衣	大学生		グループ3
12	山本 真緒	社会人		グループ3
13	由里 亮太	社会人		グループ4
14	吉田 楓太	大学生		グループ4
15	野村 真未	大学生		グループ4
16	森井 友也	社会人		グループ4

### 事務局

	氏名	所属	職名
1	宮崎 茂樹	宮津市総務部	部長
2	井上 晴登	宮津市総務部総務課	課長
3	徳澤 雅仁	宮津市総務部総務課	総務秘書係 係長
4	上山 直仁	宮津市総務部総務課	情報推進係 係長
5	由利 隆博	宮津市総務部総務課	総務秘書係 主査

### 市職員検討グループメンバー

	氏名	所属	職名
1	森口 英一	宮津市建設部	部長
2	辻村 範一	宮津市企画財政部	次長
3	中嶋 章夫	宮津市建設部都市住宅課	課長
4	長澤 嘉之	宮津市企画財政部財政課	担当課長
5	黄前 佳之	宮津市建設部都市住宅課	建築住宅係 主任
6	瀬野 理砂	宮津市建設部都市住宅課	建築住宅係 主任